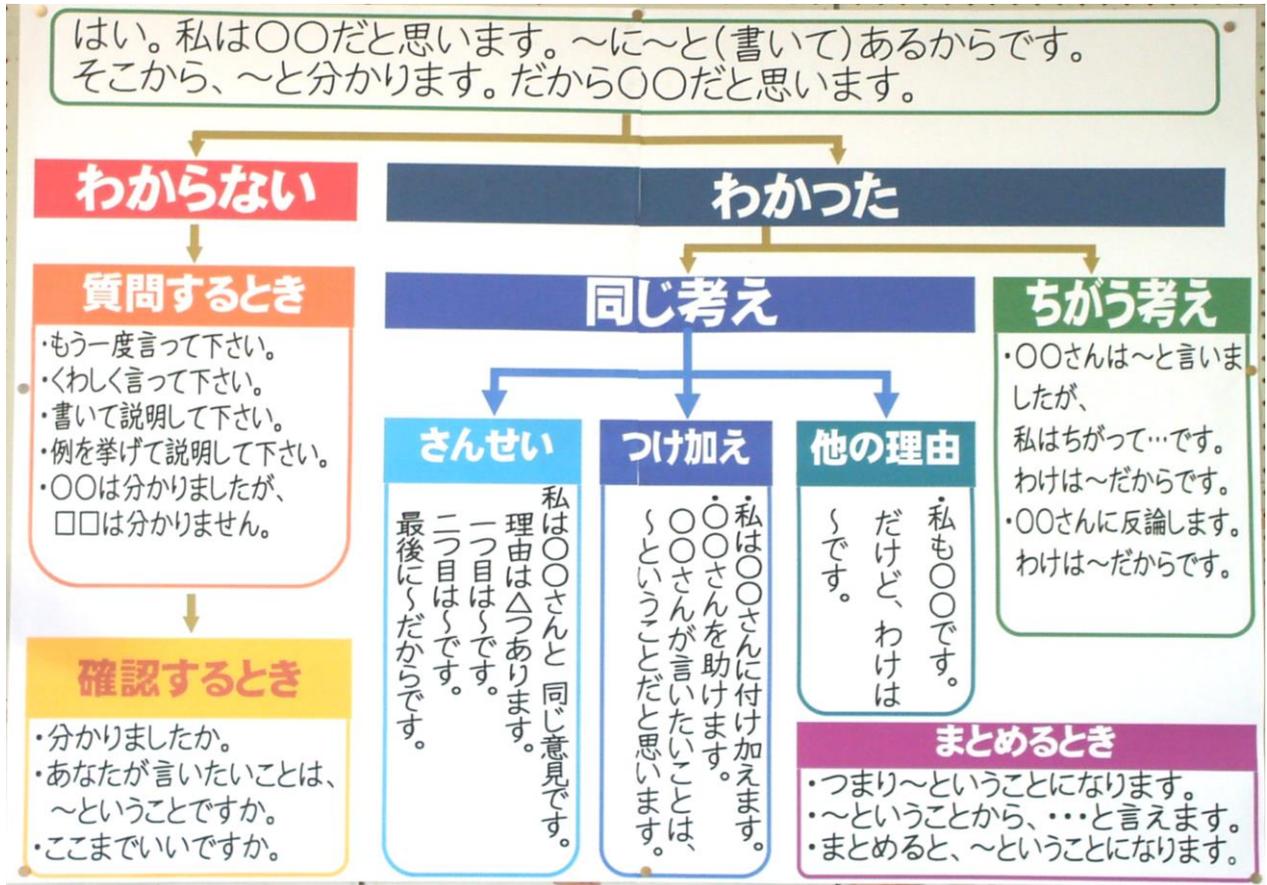


4 言語活動を支える言語技能の向上を図る取組

(1) 話し合いの仕方（意見の聞き方と述べ方）

児童が学び合いをするためには、考え—根拠—理由（付け）という基本的な発言だけでは難しい。学び合いにおいて重要なのは、友達の発表を聞いて、その考えと自分の考えがどうつながるのかを考えるとこころだといえる。それには、聞き手側の力も高まらなければならない。そこで本校では、友達の発言を聞いてよく考えるための手立てとして、「話し合いの仕方」を作成して教室前面に掲示した。



これは高学年における話し合いの仕方である。児童がこのような話し合いの仕方を身に付けることで、それぞれの考えの違いやつながりが明らかになり、納得したり新たな発見をしたりする学び合いへとつながっていく。そこで、どの教科でもこの話し合いの仕方を身に付けるように取り組んでいった。

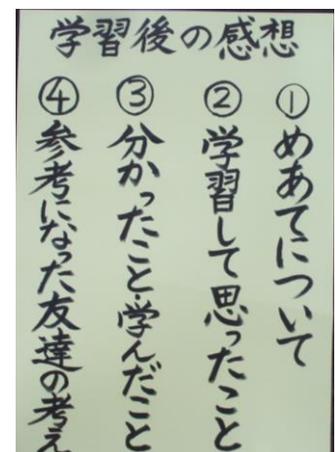
(2) 感想の書き方

学び合いによって自分の考えの深まりや広がりにつかせるためには、感想の書き方が重要である。そのため、感想に書く内容を設定して書かせた。内容については、学年に応じた段階を設けている。

【感想の内容】（高学年の例）

- めあてについて
- 学習して思ったこと
- 分かったこと、学んだこと
- 参考になった友達の考え

このようなことを書くことで、友達の考え方や話し方にも児童の目が向くようになった。



【高学年の例】

